

「シドニー便り 2. 0」(第10回)

～ ダーウィン再訪 : 空爆追悼式典、伊124沈没追悼式などへの参加:

Return to Darwin : Commemorative Service of Darwin Bombing and Submarine I-124～

2月26日

2月18日から20日まで、ダーウィンを再訪しました。昨年11月以来の2度目の訪問です。

2月19日には、ダーウィン市長主催の空爆追悼式典、北部準州豪米協会主催による USS Peary 号沈没追悼式典、北部準州のファイルズ首相主催レセプションに参加し、準州関係者との個別の面会を行いました。

空爆追悼式典では、空爆が開始された午前9時58分に銃砲と警報が流され、二機の戦闘機が飛行しました。今から81年前、1942年2月19日の日本軍によるダーウィン空爆は、民間人を含む200名以上の死者をもたらし、オーストラリア本土が初めて大規模な攻撃を受けた日として、この国の歴史に深く刻まれています。

その前日の2月18日には、北部準州豪日協会(AJANT)の主催により、伊号124潜水艦戦没者追悼式が行われました。1942年1月20日、「伊124」はダーウィン沖で豪米連合軍の応戦を受けて沈没し、乗員80人全員が戦死しました。彼らの遺骨は今なお船内に残されたままです。

昨年11月の私の訪問時、北部準州政府遺産局から、この伊124の3D写真を撮影する計画であることの説明を受けましたが、この撮影オペレーションの過程で、遺産局関係者は伊124の沈む海底近辺の砂を採取するという特別な配慮を払ってくれました。

そして今回、伊124乗組員のご遺族の一人である千葉氏が日本からダーウィンを訪問され、追悼式でこの砂の贈呈を受けました。慰霊碑の前に一部の砂を埋め、AJANTにも一部を残し、日本に持ち帰り乗組員ご遺族に一部を渡した後、広島県呉市の海軍墓地と東京都渋谷区の東郷神社に奉納されるとのことでした。遺骨と同じ扱いとして納められるとのこと。式典には、1月に着任したヘギー行政官にもご参列を頂きました。この話は、現地のテレビや新聞でも大きく取り上げられました。

私からは、日豪両国が先人たちのたゆまぬ努力の結果、和解を経て、交流と協力を積み重ねてきたこと、今では日豪両国そして米国が地域・世界の平和と安定のために志を共有し絆を深めていることを称えるメッセージをお伝えしました。ヘギー行政官には、20日に個別に表敬訪問の機会を頂き、

改めて北部準州関係者による和解への取組に深い謝意を表しました。

日本と北部準州は、INPEXによるLNG大型投資をはじめ、貿易・投資分野で深いつながりを有しています。今後は、防衛交流・安全保障分野の協力の機会もますます増えることが期待されます。そのような北部準州とその州都・最大都市であるダーウィンが、日本軍の空爆開始と伊124沈没から81年を経た今日もなお、日本とオーストラリアの歴史において特別に記憶される街であることを深く実感させる訪問となりました。

(今回の訪問には、キャンベラの大使館から、天沼防衛駐在官に参加いただきました。)



AJANT 代表から砂を受け取る千葉氏

# Gesture of peace marks war tragedy



Ruth Jones, Administrator of the Northern Territory Professor Hugh Heggie PSM, Mariko Tokuda, and Consul-General of Japan Shuichi Tokuda attended the I-124 submarine memorial. Picture: Sierra Haigh

## SIERRA HAIGH

TERRITORIANS have gathered at the Dripstone Cliffs to commemorate the 81st anniversary of a World War II wreckage.

The Imperial Japanese Navy I-124 submarine sank in 1942 with 80 crew members on board, and was the first wreck in Australia to be protected under the Commonwealth Historic Shipwrecks Act 1976.

Australian-Japanese Association of the NT president

**"With a passive time, you realise that with our common humanity, we need to work towards a journey of peace and reconciliation."**

AUSTRALIAN-JAPANESE ASSOCIATION OF THE NT PRESIDENT KATHLEEN BRESNEHAN

Kathleen Bresnehan said it was important to remember each aspect of the Territory's history.

"As time has progressed, we realise that conflicts have happened in the past, and

war," she said. "With a passive time, you realise that with our common humanity, we need to work towards a journey of peace and reconciliation."

Reflecting on the war history of Australia and Japan,

Consul-General of Japan Shuichi Tokuda said both countries had roles to play in reconciliation and cooperation.

"Today, Japan and Australia are working together with other like-minded nations for peace and prosperity," he said.

"On this day, let us remember and renew our determination for this course."

In an effort to offer the fallen submariners' families closure, archaeological divers retrieved a container of sand

from the wreck site in November 2022, that was later delivered to Japan.

Some of the sand was spread at the site of a memorial plaque at the Casuarina Coastal Reserve - alongside a wreath - on Saturday night.

Guests were also invited to make offerings of flowers and incense.

Administrator of the Northern Territory Hugh Heggie attended the sombre service, as well as Captain Tomoyuki Amanuma on behalf of the Embassy of Japan.

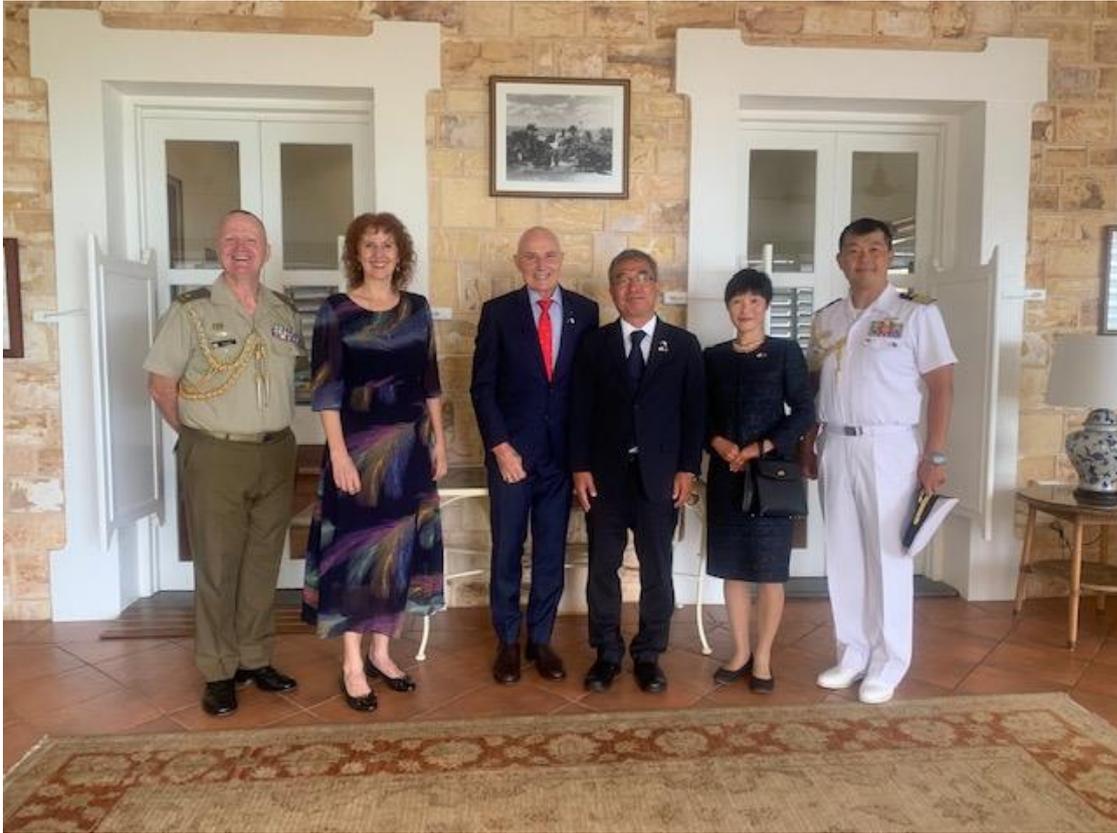
2月20日付け NT News 記事



USS Peary 沈没追悼式



空爆追悼式典



ヘギー行政官表敬



ファイルズ首相

ローラー財務・インフラ・計画・教育担当大臣